

番傘川柳本社

9月投句句会

締め切り……令和6年8月15日
 参加者………101名
 投句整理………中岡 千代美
 柴田 桂子
 名簿作成………中岡 千代美
 清 記………稲葉 良岩

宿題 バランス 中島 和子 選

恥掻かぬようバランスを取る熨斗袋
 拘りが過ぎてバランス欠いている
 バランスを保つ財布の主導権
 冗舌と無口が添うて金婚賀
 ちぐはぐな夫婦だけれど息は合う
 ごちそうを食べましたねと秤から
 嫁姑つりあい保つ台所
 すごいバランス揺れる車内でする化粧
 バランスのとれない夫婦面白い
 デコボコのアンバランスでよしとする
 一言が心のバランスを崩す
 決算書何とか出せた純利益
 車間距離とって妻とはいいい旅路
 五分搗き米小麦も入れた美容食
 年金の枠でおしゃれをしています

田中五十鈴 和泉富美子
 弘津 明子
 田中きみ子
 浜野みさえ
 近藤 クニ
 戸田 清孝
 黒田るみ子
 島田千代子
 原 加代子
 中谷 栄子
 村田 賢爾
 萩野 太一
 中川 彰一
 福本 清美

シーソーのバランスだった母の位置 睦まじく一姫二郎良き家族 三世代同居バランスよく笑い 七三の整髪映えるいい笑顔 シェルウィダンスワルツの曲が心地良い シーソーのバランス夫が軽すぎる 微妙だな余命と金のバランスは つりあいが義理と人情抱いている バランスに付度しないペット達 バランスが変わる令和の嫁姑 心身のバランス遊び心持ち 陰と陽バランス紡ぎ生き延びる 毒少し混ぜてバランスとっている エンゲル係数バランス狂った家計簿 パリコレのアンバランスが人気呼ぶ シーソーの傾く方に媚を売る 人心を掌握してるバランスで

栗原つや子
 西陣 五朗
 石谷 恵子
 久崎 田甫
 高瀬 秀子
 佐藤 辰雄
 伊牟田洋史
 主税みずほ
 富川 章
 住田 照水
 鮎子田嘉子
 桑野まりこ
 高木みち子
 入江 晴菜
 大島美智代
 菱木 誠
 水戸 二七

宿題 虫 湯澤 孝扇 選

台風が蟬から虫へお膳立て
 蛸が去って坪庭虫集く
 かぶと虫戦車の威厳見せつける
 名も知らぬ虫の子逃がす盆の入り
 泣き虫でいい泣くこと我慢するよりは
 腹の虫レントゲンには胡麻をする
 虫が通過するのを待つてパーバット
 一寸の虫にも生きる権利持つ
 夜のとばり落ちて虫達愛の園
 聞く耳を選んでいます秋の虫
 時々は虫干したいパートナー
 美しく羽虫をつぶすキミの指
 小さい秋ビルの谷間に虫の声
 蟬しぐれ夫婦喧嘩の邪魔になる

瀬戸 波紋
 山田 順啓
 福本 清美
 廣田ひで子
 和泉富美子
 掃部 博隆
 中村八十八
 戸田 清孝
 柴田昭三郎
 竹明なおみ
 田中五十鈴
 やまぐち珠美
 大島美智代
 諸富 幹夫

清濁の真ん中辺が住みやすい
 善と悪心の中の弥次郎兵衛
 投攻守揃った隙のないチーム
 核バランスによるかりそめの平和
 バランスははったらかして整える
 ぼくの顔神の狙いがわからない
 パロピカンアンバランスな美の極致
 真善美弓は心で引いている
 一長一短適温を支え合う

笹倉 良一
 西谷 公造
 大岩 郁夫
 山田 順啓
 山岸 洋美
 角野たかし
 三瀬清一朗
 安西 廣恭
 中島 和子

腹の虫納めて仕切り直します
 四季問わず耳奥に蟬飼っている
 苦虫を噛んだ顔でも許してる
 虫干しを畳む手さばき母なれば
 虫の声縋いてみる歎異抄
 練習の虫が集まる甲子園
 勉強も出世も虫になりそこね
 カブト虫よりもゲームの令和の子
 ゴキブリにパニックになる台所
 虫のよい話に裏の裏がある
 結局は玉虫色の政治劇
 カメムシが車の中で怒りだす
 収まらぬ腹の虫には酒が要る
 金メダル稽古の虫を神は知る
 腹の虫鳴って和んだ三者懇
 青虫も絶賛をする無農薬
 ふたりして虫の音聞かばあと幾度
 時々空を飛びたい本の虫
 いけすかぬ虫が一番匂を食う
 根性の虫一匹を飼っている
 父に似たカマキリに会う畑仕事
 紙の虫大事な一字食っていき
 土壇場で弱虫がだす底力
 それぞれの虫に不思議な物語
 まだサナギ夢あたためている少女

毛利 一元子
 萩野 太一
 能田 文夫
 弘津 明子
 南 高志
 稲垣 義舟
 高橋 孝造
 西川 東岳
 西谷 公造
 笹倉 良一
 安西 廣恭
 北川 周興
 村上 哲子
 富川 章
 穴戸三喜恵
 高木みち子
 青嶋由紀美
 鮎子田嘉子
 田中きみ子
 中谷 栄子
 栗原つや子
 細川 正章
 豊田 芳香
 常國 喜好
 石谷 恵子

虫喰いの風情を生ける夏座敷
 山口由利子
 宿題 あれこれ
 下林 正夫
 選
 婿選びあれこれ文句つけるパパ
 あれこれ迷ったあげくあみだくじ
 あれこれと言った尻から忘れてる
 嫁ぐ子へあれこれ持たす母ごろ
 あれこれと言われるうちが華でした
 あれこれとあって住しい一人飯
 苦情処理引き際探る電話口
 あれこれとあの世が指し図する盆会
 あれこれと過去は語らぬ父である
 美味しそうつい取り過ぎるバイキング
 修正はできぬ男の走馬灯
 あれこれと聞いて私の耳ダンボ
 いろいろな尾ひれをつけて飛ぶうわさ
 年月があれこれ誤解といていく
 あれこれと話題が絶えぬ二刀流
 あれこれと買う気をそえる蚤の市
 嘘一つばれてあれこれ嘘重ね
 あれこれと聞いては試す膝と腰
 横着に杖であれこれ指図する
 あれこれと主語を語らぬ老い二人
 人生はドラマ泣いたり笑ったり
 あれこれと試着してみてあきらめる

安西 廣恭
 和泉富美子
 植野 繁子
 桑野まりこ
 浜野みさえ
 田中五十鈴
 穴戸三喜恵
 栗原つや子
 伊牟田洋史
 阿部 俊八
 茶谷 好太
 佐藤 后子
 久崎 田甫
 池本 ゆき
 小林 祥司
 南 高志
 富川 章
 西川 東岳
 瀬戸 波紋
 羽生 悦郎
 大島美智代
 藤本 和

心配性あれやこれやと種を蒔く
 掃部 博隆
 海鳴りも地鳴りも越えてきた夫婦
 菱木 誠
 独り居は泣くも笑うも一人です
 近藤 クニ
 常識のあれこれ今じゃ非常識
 廣田ひで子
 あれだよと言えばこれだと天邪鬼
 石谷 恵子
 あれこれと思う心が姦しい
 中谷 栄子
 あれこれと生きがい探す広辞苑
 村上 哲子
 人間のあれこれ見てる屋の月
 佐藤 辰雄
 あれこれと迷った末の外れくじ
 常國 喜好
 あれこれと世話を焼かせる居候
 稲垣 義舟
 あれこれを報告します募参り
 香川 大
 カレンダー家族のあれこれ賑やかに
 山岸 洋美
 保証書にあれこれ多い但し書き
 田中きみ子
 あれこれの音色東ねて振るタクト
 山田 順啓
 あれこれとプランで終わる夏休み
 高橋 孝造
 あれこれと詮索好きの町雀
 鮎子田嘉子
 あれこれと言うがつまりはないお金
 西井 栄一
 結び方いろいろあった赤い糸
 福本 清美

宿題 半端
 端 萩野 浩子
 選
 この暑さ半端じゃないよ四〇度
 高木みち子
 半端ない暑さに地球壊れそう
 香川 保子
 絶景へ半端な雲が邪魔になる
 松岡登代子
 たいしてはジャンケンで済むその半端
 浜野みさえ
 半端者いつも孤独な野のアザミ
 栗原つや子

山積みの半端なかにある真
ガウディの夢完成は道半ば

植野 繁子

何もかも半端で渡る丸木橋
半端ない覚悟はまるで修行僧

隅田 外男

ストレスも積もりつもって活火山
積んで置くだけで安心本の虫

大野 浜子

迷惑至極中途半端なおせっかい
富士登山半端な服の命取り

三瀬清一郎
豊田 佳子

ぬるま湯の好きな男の生返事
裏金も中途半端に暮引きか

中村八十八
福本 清美

山積みの救援物へ目を見張る
あなたとの思い出山と積む愛車

戸田 清孝

どちらともつかない男もう飽きた
信号の黄に品格を試される

田中 堂太
住田 照水

勢いだけで上げた拳を持って余す
中途半端で自分史はまだ無題

羽生 悦郎
田中きみ子

美辞麗句積んで崩れてゆく心
積んできた自分の老いも妻に見る

石谷 恵子

煮え切らぬ言葉起こしている波紋
高らかに謳う自由の無責任

替地三枝子
中武 弓

ここまではかじった跡の哲学書
まあいいかいかで折れて生きている

菱木 誠
横山 順子

夫婦してこつこつ積んだ屋根瓦
つめこんだ知識吐き出す八十路坂

高橋 孝造

やることの中途半端が採るものと
採めぬよう切り捨てられている半端

能田 文夫
久崎 田甫

人知れず努力重ねてきた褒美
歳月が二人を相似形にする

赤池 加久 選

積んでなおまたまだ見たい新世界
栄光の陰に努力の積み重ね

角野たかし

まだ夢が中途半端じゃ仕舞えない
切り捨てた半端が後で惜しくなり

桑野まりこ
西谷 公造

親残す積立すらへ慈雨となる
夢を積む投げ打ち走る球児たち

伊藤 博信

積み上げた汗は語らぬボランティア
よくやった積んだ努力を抱いてやる

西井 栄一

いいんだよ半端だから美味しんだ
足一本欠けたカニです五割引

小林 祥司
掃部 博隆

失敗も積んで成功見えてくる
経験を積んだ人ほど重い口

桑野まりこ
富川 章

虹纏む日がきつとくる汗を積む
経験を積んで余裕のたたき上げ

青嶋由紀美
高木みち子

謎解きが半端で出世に遠い椅子
間がどこか抜けていようとマイペース

弘津 明子
西澤 司郎

積んで積んでそれでも積んで砂の城
震災で積んだ苦労も波に消え

楠山東石子
村上 哲子

真心を積んで余生を強く生き
積み上がる家財の泥に気が滅入る

武藤 伶子
小林 祥司

おばあさんおばあさんのか迷う年
名場面中途半端でコマージュ

石谷 恵子
近藤 クニ

積めるだけ積んでスパー梯子する
善行と意識しないで積む功德

田中五十鈴
佐藤 后子

響き合うことばを探し辞書を積む
不義理積むたびに故郷遠くなる

山口由利子
廣田ひで子

中途半端な話に乗って共倒れ
身につかぬ広くて浅い習い事

中川 彰一
稲葉 岩明

無駄積んで積んで大人になってゆく
災害に土のうを積んで気がゆるむ

豊田 佳子
菱木 誠

経験を積んで修羅場に動じない
積年の汗と涙にあった運

西川 東岳
能田 文夫

好きか嫌いかはつきりしないから困る

高瀬 秀子
楠山東石子

横山 順子

横山 順子

隅田 外男

隅田 外男

下積みの辛苦匠の顔になる
徳不徳積んで大きくなる器

田中きみ子
掃部 博隆

宿題 みっともない片岡 加代 選

コールドで小学生に負けました
迷い箸なんて駄目ですお嬢さん
つけ睫毛だけはやめてよお母さん
相手見て横柄になる偉い人

中川 彰一
福本 清美
中村八十八
富川 章

いい加減にしない駄々をこねるのは
口ばかりいざという時巻く尻尾
尻尾振る姿妻子に見せられぬ
早食いはみっともないとおばあちゃん
知事の座にながなんでもへぼりつく

三瀬清一郎
大島美智代
高木みち子
中武 弓
田中 堂太

いい年の私欲に走る身勝手さ
老いの日々みっともないは隠せない
インバウンドの文化の違いだとしても
敗軍の将兵を語るなんてね

角野たかし
香川 保子
山口由利子
西谷 公造

爪噛むて子供やないで二十やろ
裏金は少ないほうだと自慢する
悪口を言う大統領の選挙戦
他人から見ればみっともない話

植野 繁子
西井 栄一
久崎 田甫
弘津 明子

お会計なぜか上司が消えている
前進でぶつけバックでまたぶつけ
肩書きをことある毎にチラつかせ
政党は辞めても外さないバッジ

村上 哲子
大岩 郁夫
石谷 恵子
西川 東岳

政治家の会話ちぐはぐ見苦しい
会見は言い訳ばかり聞かされる
見苦しい秘書に丸投げする議員
いつ迄もグズグズ嘆く負け惜しみ

諸富 幹夫
菱木 誠
住田 照水

核廃絶に参加をしない被爆国
無様じゃない努力の果ての負けだもの
みっともないと言っられない離婚劇
またやった同じところで同じミス
みっともないと自覚してれば大丈夫
痴漢ですみっともない手掴まれる
潔く頭下げれば済むものを

楠山東石子
稲垣 義舟
替地三枝子
栗原つや子
豊田 佳子
藏田 康子
瀬戸 波紋
青嶋由紀美
稲葉 岩明
毛利 元子
池本 ゆき
田中五十鈴
伊牟田洋史
笹倉 良一
穴戸三喜恵
山岸 洋美
土居 直子
鮎子田嘉子
茶谷 好太
常國 喜好

みっともない噂有名人だから
みっともない自分も見せてきた絆
転びなや声かけ合っただその矢先
下心まるまる見えている野心
みっともない自慢話がまだ続く
人間ってそんなもんだと神が言う
突如笑う歩きスマホの電話中
みっともない自分受け入れ楽になる
みっともない真似はできない三代目
生きていくればみっともなくたって
乗り越した訳は誰にも話さない
肩書きをまだぶら下げて生きている

イメージ吟募集

2025年1月号(11月15日必着)

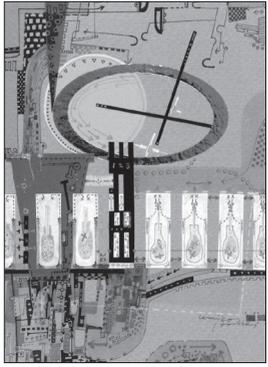
第111回 イメージ吟(2句)



※番傘11月号の投句用紙をご利用ください。

2025年2月号(12月15日必着)

第112回 イメージ吟(2句)



※番傘12月号の投句用紙をご利用ください。